

週刊 タバコの正体

第13話

先週、2年生の皆さんは薬物乱用に関する講演を聞きましたね。下の図は、その資料の中から抜粋したものです。

なぜ、薬物乱用はいけないのか。

1. 脳をおかされて、心も身体もメチャクチャになる

覚醒剤の場合

幻覚・妄想
フラッシュバックを起こす。
血圧が異常に高くなる。
静脈に炎症を起こす。
強い疲労感や倦怠感、視力感におそわれる。
依存性が強い。

シンナーの場合

記憶力低下、幻覚、妄想、認知障害を起こす。
歯がぼろぼろになる。
視力の低下・失明する。
肝臓・腎臓の障害を起こす。
生殖腺の萎縮を起こす。
手足のふるえ、しびれ、麻痺が出る。
成長期の青少年には、胃がのびない、筋肉がとろえる、体重が減るなどの症状が現れ、眼やからだの発育をさまたげる大きな原因となります。

MDMAの場合

酒酔、暴言、聴覚障害、起立不能、けいれん、記憶障害になる。
高血圧になる。心臓の機能不全、心臓発作を起こす。
肝臓の機能不全を起こす。
悪性の癌体腫による筋力の著しい障害を起こす。
腎臓と心臓血管の損傷を起こす。

大麻(マリファナ)の場合

精神障害:大麻精神病(幻覚・妄想など)を起こす。
生殖機能への悪影響を起こす。
肺ガンの誘発を起こす。

2. 自分の意志では止められなくなる

薬物乱用の最も恐ろしい特徴は、薬物の“依存性”と“耐性”

依存性 → 一回ぐらいなら大丈夫と思って、また使いたくなり、繰り返し使わずにはいられなくなってしまふ。

耐性 → 使用を繰り返しているうちに、それまでの量では効きめがうすれていく。

一回だけと思って始めた人も、薬物の“依存性”と“耐性”によって使用する量や回数がどんどん増えていき、どうしようもない悪循環に陥ります。もはやそうなると自分の意志だけでは止めることはできません。

薬物依存の悪循環

厚生労働省・都道府県
後援:(財)麻薬・覚醒剤乱用防止センター

覚醒剤、大麻、シンナーなど様々な種類の薬物は、人間の身体も精神もぼろぼろにしてしまいます。でも、

- 1回だけなら平気さ
- イライラがとれてすっきりするよ
- ちょっとだけ、ためしてみない
- みんなやてるよ

などの誘い文句にのってしまい、手をだしてしまうと上の図のような事態に陥ります。

被害の症状がでるまでの時間と程度に差はあっても、薬物依存とニコチン依存になってしまう経緯は、まったく同じなのです。

だから、タバコも薬物も『ダメ。ゼッタイ。』という態度が必要です。